

2026 年度  
実践的FDプログラム  
受講ガイドブック

立命館大学 教育開発推進機構  
教育・学修支援センター

# 目次

|                                  |   |
|----------------------------------|---|
| 1. 実践的FDプログラムの概要.....            | 1 |
| (1) 実践的FDプログラムとは.....            | 1 |
| (2) 実践的FDプログラムの到達目標.....         | 1 |
| 2. 実践的FDプログラムが保証する教授・学習支援能力..... | 2 |
| 3. 実践的FDプログラムの受講について.....        | 3 |
| (1) 受講対象者・定員.....                | 3 |
| (2) 受講期間.....                    | 3 |
| (3) 年間スケジュール（概要）.....            | 3 |
| (4) 修了に向けたモデルプラン.....            | 4 |
| (5) 実践的FDプログラムの修了について.....       | 5 |
| (6) 修了に向けた流れ.....                | 6 |
| (7) マイクロクレデンシャル/オープンバッジ.....     | 6 |
| 4. 実践的FDプログラムの単発受講について.....      | 7 |
| 5. 講義一覧.....                     | 7 |
| (1) 必修セッション一覧.....               | 7 |
| (2) 選択セッション一覧.....               | 7 |
| (3) 自由学習セッション.....               | 8 |
| (4) ナンバリングについて.....              | 8 |
| 6. お問い合わせ.....                   | 9 |

## 1. 実践的FDプログラムの概要

### (1) 実践的FDプログラムとは

実践的FDプログラムとは、教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することができる知識、技能、とくに「アクティブ・ラーニングを実践する能力」を修得することを目的とした研修プログラムです。本プログラムは、授業実践をおこなううえで求められる基礎的な知識と技術を学ぶコンテンツと、大学教員に求められる教育に関するアカデミック・プラクティスに対して、体系的な理論や情報を提供するコンテンツで構成されます。

本プログラムは、高等教育機関での教育歴が浅い方、これから大学教員になることを目指す方、大学での自身の授業をアップデートしたい方、大学で教えるということに興味がある方など、大学で授業を行っている、もしくはこれから授業を行う予定がある方が受講の対象者となります。

立命館大学が独自に設定した修了要件を満たした方には、オープンバッジ（到達目標を達成したことの証）を発行します。受講～修了～オープンバッジの発行まで、すべてオンライン上で完結しますので、お気軽に受講していただけます。

また、各大学・高等教育機関におきましては、組織の文脈や到達点に応じて本プログラムの一部コンテンツを抽出・組み合わせ、目的や対象者に適した研修プログラムとして活用することが可能です。これにより、大学教員に求められる教育能力および職能の育成を図り、大学教育の質の保証につなげることができます。

### (2) 実践的FDプログラムの到達目標

- 高等教育機関で自立して授業を実施するための基礎的な知識と技能を身につける
- 高等教育機関の教員として自律的に教育能力を高めるための知識と技能を身につける

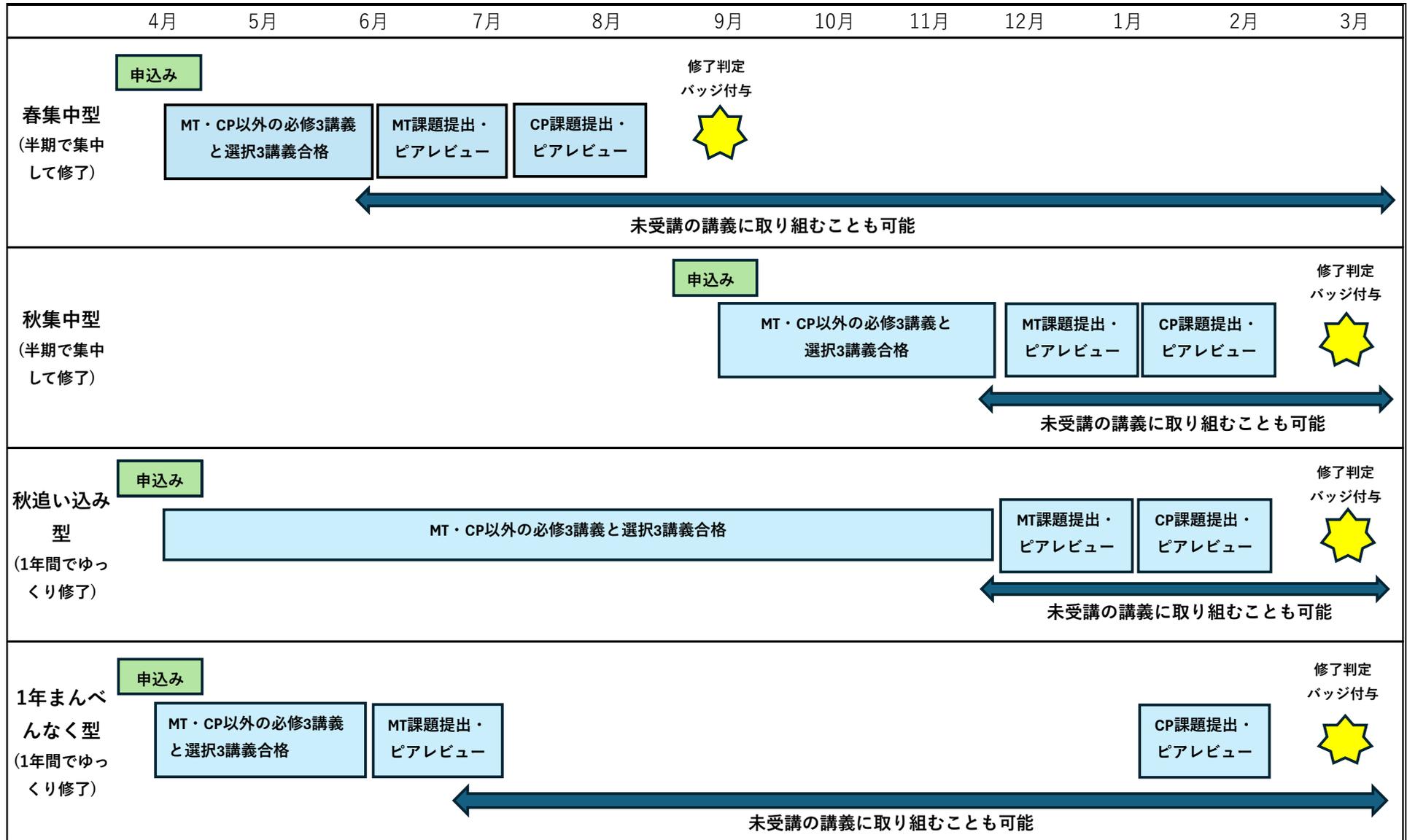
## 2. 実践的FDプログラムが保証する教授・学習支援能力

| 項目                         | 教授・学習支援能力 |                                                                |
|----------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------|
| 1.<br>学習活動の設計              | 1-1       | 教授と学習に関する一般的理論を理解する。                                           |
|                            | 1-2       | 学生はいかに学ぶかを理解したコース設計ができる。                                       |
|                            | 1-3       | 学習者中心の授業の設計と計画ができる。                                            |
|                            | 1-4       | 学習者中心の授業に必要な目標設定とその適切な記述ができる。                                  |
|                            | 1-5       | 学習者中心の授業において適切な評価観点の設定と評価方法の選択ができる。                            |
|                            | 1-6       | アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の設計と計画ができる。                                 |
| 2.<br>教授および学習活動の展開         | 2-1       | 高等教育において学習者中心の授業を実施するための教授・学習方略、方術を理解する。                       |
|                            | 2-2       | 学習を支援する様々なテクノロジーの特徴、利用方法を理解し、授業に用いる。                           |
|                            | 2-3       | 学習展開に応じて柔軟に授業を修正・転換できる。                                        |
|                            | 2-4       | 学生と協同して授業を進めることに意欲をもつ。                                         |
|                            | 2-5       | アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施ができる。                                    |
| 3.<br>授業の質の保証              | 3-1       | 教授・学習方略、方術に応じた教育効果の評価方法を理解する。                                  |
|                            | 3-2       | 客観的かつ厳格な成績評価ができる。                                              |
|                            | 3-3       | 教育効果の評価結果について学生に効果的なフィードバックができる。                               |
|                            | 3-4       | 自らの授業や実践を省察し、改善することができる。                                       |
|                            | 3-5       | アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の評価ができる。                                    |
| 4.<br>効果的な学習環境および学習支援環境の開発 | 4-1       | 学習コミュニティの形成を促進する。                                              |
|                            | 4-2       | 様々なメディアやツール（とりわけ立命館大学に整備されたメディアやツール）を活用し、効果的な学習環境の整備や学習支援ができる。 |
| 5.<br>自己の専門性の継続的な発展        | 5-1       | 学生の多様性を認め、尊重する。                                                |
|                            | 5-2       | 常に高等教育や教授法に関する新しい知識を取り入れることに努める。                               |
| 6.<br>大学特有の必要とされる力         | 6-1       | 所属する大学の教学について理解する。                                             |
|                            | 6-2       | 所属する大学の学生の特徴を理解する。                                             |

\*教授・学習支援能力と、コンテンツの対応関係は、カリキュラムマップをご確認ください。



(4) 修了に向けたモデルプラン



## (5) 実践的FDプログラムの修了について

修了要件は以下の表の通りです。

- \* 本学は、受講者の学習状況（視聴ログ、進捗、テスト結果、提出物等）を、本プログラムの運営、学内外への広報、分析、改善、合格判定、修了判定、ピアレビューの実施、本プログラムに関する実施報告及び公表ならびにおよび統計資料の作成等のために取得および利用します。
- \* 修了者にはそれぞれの種類に応じたオープンバッジ（Open Badges 3.0）を発行します。オープンバッジの発行・授与のために、受講者の個人情報を[一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク](#)に提供いたします。

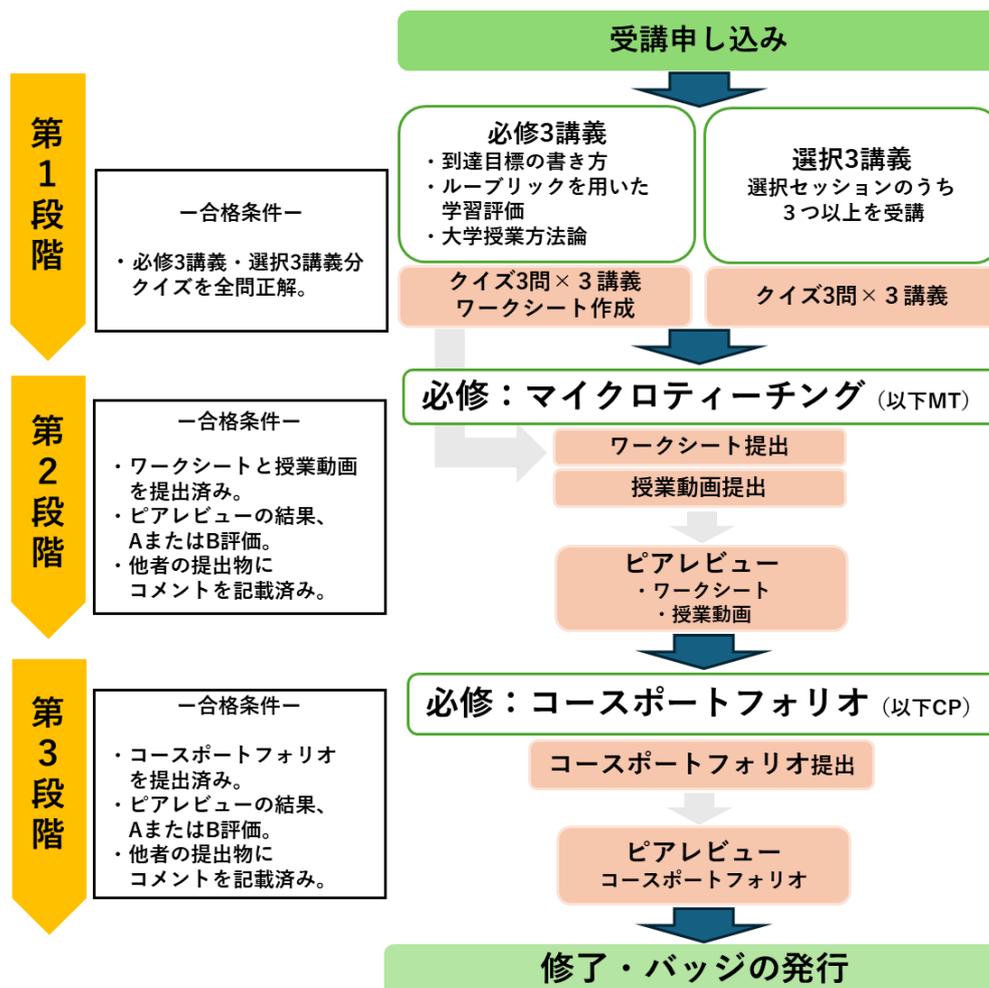
|      |         | オンデマンド講義 |
|------|---------|----------|
| 第1段階 | 必修セクション | 3講義      |
|      | 選択セクション | 3講義      |
| 第2段階 | 必修セクション | 1講義      |
| 第3段階 | 必修セクション | 1講義      |
| 合計   |         | 8講義      |

- \* 修了に最低限必要な学習時間は、授業時間 12 時間、総学習時間 15 時間に相当します。
- \* 各講義の合格要件は、講義ごとに異なりますのでご注意ください。
- \* 本プログラムの修了判定およびオープンバッジの付与は、9月と翌3月に行います。

## (6) 修了に向けた流れ

本プログラムを修了するためには、第1段階⇒第2段階⇒第3段階といったステップを踏む必要があります。第1段階において、指定の合格条件を満たした場合、第2段階に進むことができます。同様に、第2段階において、指定の合格条件を満たした場合には、第3段階に進むことができます。第3段階を合格した場合、本プログラムの修了になります。各段階の合格条件を満たせていない場合、次の段階に進むことはできません。

本プログラムには、他の受講者の授業動画やワークシートを閲覧する「ピアレビュー」が含まれます。ピアレビューでは、他の受講者に対し、受講者の顔、氏名が開示されます。受講者は、そこで知り得た他の受講者の情報を厳重に管理するものとし、第三者に開示または漏洩してはなりません。



## (7) マイクロレデンシャル/オープンバッジ

本プログラムは、利用者の学習意欲を促進するとともに、学修履歴の可視化・可搬性および教育のDX化を目的に、学修成果をマイクロレデンシャル (Micro-Credentials) として認定し、修了者に対して、国際標準規格に準拠したデジタル証明であるオープンバッジ (Open Badges 3.0) を発行します。オープンバッジには、学修成果・学習量等のメタデータが付与されており、学修の成果を客観的に示すとともに、大学教育の質保証に資する仕組みとして活用することが可能です。

マイクロレデンシャルおよびオープンバッジについて

<https://www.ritsumei.ac.jp/itl/outline/practical-fd-program/#micro-credential-openbadge>

#### 4. 実践的FDプログラムの単発受講について

本プログラムは、修了を目的とした体系的な受講はもちろん、興味関心のあるテーマのみを選び、VODコンテンツを視聴するという形の、単発受講（修了を必ずしも目的としない受講）も可能です。受講スタイルはご自身のペースやニーズに合わせて柔軟に選択いただけます。

単発受講の場合、第1段階で提供しているコンテンツ（以下「5. 講義一覧」のNoが“1”で始まるもの）が利用可能となります。

各大学・高等教育機関におきましては、組織の文脈や到達点に応じて本プログラムの一部コンテンツを抽出・組み合わせ、目的や対象者に適した研修プログラムとして活用することが可能です。これにより、大学教員に求められる教育能力および職能の育成を図り、大学教育の質の保証につなげることができます。

#### 5. 講義一覧

講義一覧は以下の通りです。講師の所属はいずれも作成時点での所属です。

##### (1) 必修セッション一覧

| 科目コード       | テーマ                     | 講師<br>(敬称略) | 所属    | 作成<br>年度 | 対応<br>言語 | 注                                               |
|-------------|-------------------------|-------------|-------|----------|----------|-------------------------------------------------|
| 1-M-001-J/E | 授業の到達目標の書き方             | 鳥居 朋子       | 立命館大学 | 2024     | 日・英      | 作成したワークシートは、マイクロティーチングの動画提出時に合わせて提出し、ピアレビューを行う。 |
| 1-M-002-J/E | ルーブリックを用いた学習評価          | 香西 佳美       | 立命館大学 | 2024     | 日・英      |                                                 |
| 1-M-003-J/E | 大学授業方法論                 | 中島 英博       | 立命館大学 | 2024     | 日・英      |                                                 |
| 2-M-001-J/E | マイクロティーチング              | 鳥居 朋子       | 立命館大学 | 2024     | 日・英      | 第1段階の合格条件を満たした方のみ受講可能。                          |
| 3-M-001-J/E | コースポートフォリオ<br>—作成のステップ— | 中島 英博       | 立命館大学 | 2025     | 日・英      | 第2段階の合格条件を満たした方のみ受講可能。                          |

##### (2) 選択セッション一覧

| 科目コード       | テーマ                          | 講師<br>(敬称略) | 所属     | 作成<br>年度 | 対応<br>言語 |
|-------------|------------------------------|-------------|--------|----------|----------|
| 1-E-001-J   | 現代の高等教育                      | 金子 元久       | 筑波大学   | 2019     | 日        |
| 1-E-002-J   | 高等教育研究史                      | 舘 昭         | 桜美林大学  | 2016     | 日        |
| 1-E-003-J   | 大学教育改革とFD                    | 川島啓二        | 京都産業大学 | 2018     | 日        |
| 1-E-004-J/E | 大学評価論                        | 鳥居 朋子       | 立命館大学  | 2020     | 日・英      |
| 1-E-005-J/E | 高等教育政策<br>—戦後日本の大学政策—        | 川嶋 太津夫      | 大阪大学   | 2023     | 日・英      |
| 1-E-006-J/E | 初年次教育の動向<br>—成果につながる初年次教育とは— | 山田 剛史       | 関西大学   | 2024     | 日・英      |

|             |                                  |                |               |              |        |
|-------------|----------------------------------|----------------|---------------|--------------|--------|
| 1-E-007-J/E | ◎教授・学習の理論と教育実践                   | 栗田 佳代子         | 東京大学          | 2024         | 日・英    |
| 1-E-008-J/E | 情報活用基礎<br>-ICTを活用した授業デザイン-       | 中島 英博          | 立命館大学         | 2022         | 日・英    |
| 1-E-009-J/E | 大学の授業の設計                         | 沖 裕貴           | 立命館大学         | 2018         | 日・英    |
| 1-E-010-J/E | 成績評価の意味と方法                       | 鳥居 朋子          | 立命館大学         | 2015         | 日・英    |
| 1-E-011-J   | 目標標準測定に基づく評価                     | 野嶋 栄一郎         | 早稲田大学         | 2016         | 日      |
| 1-E-012-J/E | ◎青年期の心理                          | 岡田 有司          | 東京都立大学        | 2024         | 日・英    |
| 1-E-013-J/E | 発達の原因と各段階の特性                     | 西垣 順子          | 大阪市立大学        | 2015         | 日・英    |
| 1-E-014-J/E | 臨床心理学の基礎と応用                      | 徳田 完二<br>串崎 真志 | 立命館大学<br>関西大学 | 2015<br>2015 | 日<br>英 |
| 1-E-015-J/E | ◎発達障害のある学生の学び<br>-自閉スペクトラム症を中心に- | 荒木 穂積          | 立命館大学         | 2023         | 日・英    |
| 1-E-016-J/E | 研究指導の方法                          | 西野 毅朗          | 京都橘大学         | 2025         | 日・英    |
| 1-E-017-J/E | パフォーマンス課題の作り方                    | 中島 英博          | 立命館大学         | 2025         | 日・英    |
| 1-E-018-J/E | 立命館大学の教学と学生の特徴                   | 中島 英博          | 立命館大学         | 2025         | 日・英    |

※講義名に「◎」がついているものは、視聴を推奨する動画です。

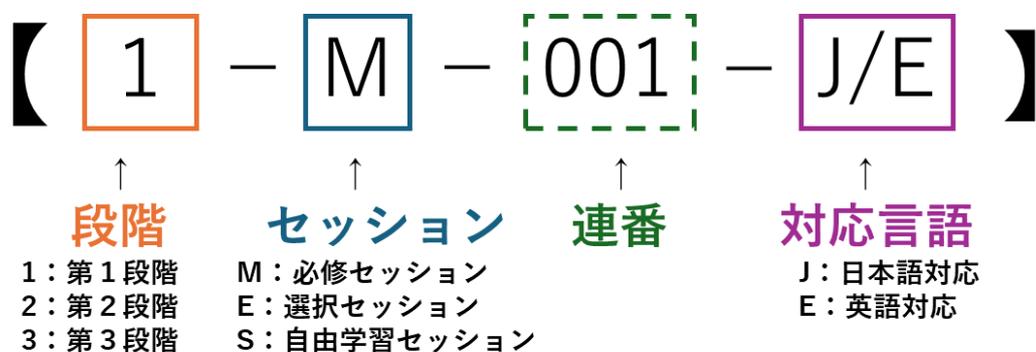
### (3) 自由学習セッション

本セッションには、修了要件や合格条件に関わる課題の提出はありません。学習や実践に役立つ内容となっていますので、ぜひご活用ください。

| 科目コード       | テーマ              | 講師<br>(敬称略)              | 所属    | 作成<br>年度 | 対応<br>言語 |
|-------------|------------------|--------------------------|-------|----------|----------|
| 1-S-001-J/E | 教員が直面するカルチャーギャップ | 立命館大学<br>教育・学修支援セン<br>ター | 立命館大学 | 2025     | 日・英      |

### (4) ナンバリングについて

各講義に科目コードを付け、講義全体を体系的に整理し、各講義の位置づけをわかりやすくしています。



## 6. お問い合わせ

立命館大学 教学部 教学推進課

教育・学修支援センター事務局

〒603-8577 京都府京都市北区等持院 56-1

TEL : 075-465-8304 / Mail : fd71cer@st.ritsumeai.ac.jp

